学校番号	３１９

令和５年度　国語科

教科	古典	科目	古典Ｂ（文型）	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「精選古典Ｂ」　（東京書籍）						
副教材等	新総合　図説国語（東京書籍） わかる・読める・解ける　古文単語 330（いいずな書店） 新精選　古典文法（東京書籍） プログレス　古典総演習　発展編（いいずな書店） 全訳読解古語辞典（三省堂） 新版　古典文法習得のための　助動詞マスターノート（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・有名な古文と漢文の作品を中心に、古典文学に親しむとともに、正しく状況や心情描写を把握できる十分な語彙力・文法を養いましょう。
・予習として単元の授業の前に取り扱う作品については一読し、その本文をノートに書き写し、また意味や文法についての調べ学習を行います。
・古文単語を中心に、受験等で必要な語彙力が身に付いたかを確かめるため、小テストを適宜行います。
・予習と課題は確実にこなすようにしましょう。

２　学習の到達目標

・古文漢文を問わず、語句の意味や文法に忠実な現代語訳ができる。
・伝統的な言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重する態度を養う。
・助動詞や重要語句の意味を、自主的に辞書を引いて調べ、独力で古文を読み解く力を身につける。
・古典の世界に親しむことで、ものの見方・感じ方・考え方を広くし、人生を豊かにする態度を養う。
・朗読・暗唱などを通して、文語特有のリズムや響きを楽しみ味わう。
・漢文では訓読や書き下し文のきまりを習得し、文章を読む。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観点の趣旨	辞書・便覧等を活用し、自主的に文章の現代語訳に取り組むとともに、解釈や現代語訳の正誤について自身の見解を述べる。	まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語や文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解し、知識を身につけている。
評価方法	行動の観察 （発表等の評価） 記述の点検	行動の観察 記述の点検	行動の観察 （発表等の評価） 記述の点検

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
一学期前半	物語	「留志長者のこと」 (宇治拾遺物語)	○	○	○	a:語句や文法に注意して本文を現代語訳している。 b: 説話編者の考えを的確に読み取っている。 c: 反語表現について理解している	a、b、c: 行動の観察と確認及び記述の点検
一学期後半	日記・	「女郎花」 (紫式部日記)	○	○	○	a:重要古語や文法、敬語に注意して現代語訳している。 b:比喩表現や和歌にこめられた心情を理解する。 c:長い文章に慣れ、正確に読む力を高めている。	a、b、c: 行動の観察と確認及び記述の点検
二学期前半	漢文	「鴻門之会」 「四面楚歌」 「項王最期」(史記)	○	○	○	a:時代的・地理的背景を確認している。 b:語句・句法に注意して正しく現代語訳している。 c:登場する人物をストーリーの中で正確に把握している。	a、b、c: 行動の観察と確認及び記述の点検
二学期後半	物語・	「車争い」 「須磨の秋」(源氏物語)	○	○	○	a:重要古語や文法、敬語に注意して現代語訳している。 b: 場面の状況を把握し、想像している。 c:敬語などから主語を考えている。	a、b、c: 行動の観察と確認及び記述の点検
三学期	読本・評論	「もののあはれの論」(源氏物語玉の小櫛) 「向井去来」(去来抄)	○	○	○	a:語句や文法に注意して本文を現代語訳している。 b:当時の世の中のありかた・考え方を理解している。 c:文法、修辞法をおさえて、現代語訳している。	a、b、c: 行動の観察と確認及び記述の点検

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:読む能力
　　c:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。